

正智深谷高等学校特別コラム

# Mind Charging

Since 2020

第284回

本田宗一郎

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和3年12月13日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

世の中で一番素晴らしいものは若者の  
エネルギーだよ。

こりゃあ進歩の原動力だ

本田宗一郎は本田技研工業株式会社の創業者。位階は正三位。

## Column

今回はみなさんもよく知っている自動車や二輪車メーカー『ホンダ』の創業者である本田宗一郎氏の言葉です。前回のコラムで紹介した元F1レーサーの『中嶋悟』が乗っていたマシンも、今や伝説のF1レーサーである『アイルトン・セナ』が乗っていたマシンもホンダのエンジンを搭載した車体でした。本田氏は幼い頃から手先が器用だったそうです。また、非常に好奇心旺盛な少年だったそうです。今回の言葉から、大人になり、その好奇心から実業家としてホンダを創業し、社長になってからも若者の頃と同様かそれ以上に好奇心旺盛で、次々に素晴らしい乗り物を自分の好奇心を形にした“作品”として開発していったのだと感じられます。そして、好奇心がエネルギーを生み出すことや、それが“若さ”ということであると本人も感じていたのだと思います。

幼い頃に両親や祖父母からも聞いた記憶があり、私自身も最近は時々身を持って感じることもあります。年令を重ねていく中で徐々に『根気強さ』というものが衰えていきます。それは悪い意味だけではなく、経験を重ねたことで得られた知識（データ）があり、その中で解決できることや、取り組む前に不可能だと判断できることが増えたからです。しかし、その判断力も本当に100%正確なのかは自分自身でもわかりません。本田氏は何度失敗したことでもきっと“今回は成功するかもしれない”と感じていたのかもしれない。例えば30回挑戦したことで31回目にととうとう成功するかもしれないと本気で信じていることができたのかもしれない。それこそが好奇心であり、若さであり、今回の言葉にある『進歩の原動力』なのではないでしょうか。これも年長者に言われる言葉ですが、『若いうちはいくらでも成長できる』ということも、気持ちの持ち方ひとつで年齢に関係なくできることなのかもしれません。常に過去の自分に勝つということは非常に大変であり、考え方によっては過去の頑張った自分を否定するようになるのかもしれませんが、そういう意味でも本田氏は時代の流れに合わせる必要や、実業家として時代の先を行くことの重要性も理解し、それを『今の自分ならきっと実現することができるはずだ』と自分にワクワクできていたのではないのでしょうか。非常にポジティブであり、自分が興味を持っていることだけでなく、自分がワクワクできることを次々と発見する自分自身にも好奇心が湧いていたのかもしれない。『年齢とはただの数字だ！』と、いつまでも好奇心を忘れずエネルギーに過ごしていきたいものですね。